

令和4年度 学校教育自己診断アンケート結果報告

令和5年
宣真高等学校



実施状況

	1 生徒対象	2 保護者対象	3 教職員対象
実施日	令和5年1月11日	令和5年1月11日	令和5年1月11日
回収期限	令和5年1月28日	令和5年1月28日	令和5年1月28日
回答者数	888人(86%)	776人(74%)	44人(81%)

回答は、設問に対するA B C Dの四択式になっています。

設問の内容がよく当てはまる場合はA、やや当てはまる場合はB、あまり当てはまらない場合はC、まったく当てはまらない場合はDをそれぞれ選んでいただいています。

次ページからの文中、表中において、設問ごとのA B C D選択の割合(%)について、大きく把握するために『当てはまる=肯定的評価=A+Bの%』、『当てはまらない=否定的評価=C+Dの%』として記述しています。小数点2位以下の四捨五入によって必ずしもA+BとC+Dの合計が100とはならない項目もあることをご了承ください。

評価結果から

A=よく当てはまる B=やや当てはまる C=あまり当てはまらない D=まったく当てはまらない

－分析と目標－

A+B=当てはまる C+D=当てはまらない A+B<肯定的評価>が80%を超えることを目標とする

①学校運営		A	B	A+B	C	D	C+D
教職員	1 各分掌や委員会、学年間の連携が円滑に行われ、機能を果たしている。	11%	59%	70%	23%	7%	30%
	2 適性・能力に応じた役割分担がなされ、意欲的に取り組む環境にある。	11%	55%	66%	30%	5%	34%

分析と措置と目標

組織間の現状認識の共有の程度や、意思の疎通の度合いについては機能を果たしているといえる割合だが、まだまだスムーズな情報・方向・対処についての連携が阿吽の呼吸で行われているとはいえない。新しい制度やシステム、機器の導入等に伴って校内研修会を設けたり、生徒事故案件についても学年・生徒指導の緊密で迅速な連携を図っているが、今後も業務過多にならぬよう工夫して共有事象の拡充を図りたい。役割分担についても柔軟に適材適所に配置できるように運営方針、分担区分の見直しを心がけて、個々の能力を現状以上に出し得る環境を整えたい。

②特色づくり		A	B	A+B	C	D	C+D
教職員	3 女子校ならではの特色ある教育的指導がなされ、その効果が現れていると感じる。	30%	55%	84%	11%	5%	16%
	4 コース独自の授業やガイダンス等を、コースの目的に沿うものかどうか毎年見直して改善を図っている。	12%	58%	70%	21%	9%	30%
保護者	1 宣真高校は、他校にはない独自の教育活動に取り組んでいる。	39%	49%	88%	10%	2%	12%
生徒	1 コースやエリアの行事や授業には、他の学校にはない特色がある。	52%	40%	92%	6%	2%	8%

分析と措置と目標

教職員の多数が私立高校、とりわけ女子校としての独自色を出していこうという認識が強いことがうかがえる。コースのカラーについても他校にない部分や生徒満足度の高い部分は維持したり、コース・エリア性に関して先取の気概で内容を入れ替えたりするなど、関係教員に一定の高い意識が見て取られる。保護者や生徒の認識も90%前後の評価と期待を例年寄せていることが感じられる。特にコロナ期間も終焉を迎えつつあり、保育フェスタの部分的公演など、緩やかに行事が復活しつつある中で、コース独自の行事の再開を期待する思いに次年度は応えていきたい。

③学校生活・学校行事		A	B	A+B	C	D	C+D
教職員	5 生徒は学校生活全般を楽しめているようである。	11%	61%	73%	23%	5%	27%
	6 文化祭・体育祭・校外学習などは有意義で生徒が楽しめるよう考えている。	27%	30%	57%	39%	5%	43%
保護者	2 学校生活は全般的に充実しており楽しいようである。	38%	47%	86%	12%	3%	14%
	3 学校行事は生徒が積極的に参加できるよう工夫されている。	28%	53%	81%	16%	3%	19%
生徒	2 学校生活は全般的に楽しく充実している。	36%	42%	78%	16%	6%	22%
	3 生徒同士や、先生と生徒の仲はよいほうである。	34%	49%	83%	14%	3%	17%
	4 学校行事（校外学習・体育祭・文化祭など）は積極的に参加できるよう工夫されている。	32%	47%	79%	18%	3%	21%

分析と措置と目標

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、特に体育祭や文化祭は感染拡大を鑑みて、規模の縮小・内容変更を余儀なくされた。しかしながら、生徒はそれを理解し、その中で充実した生活を送り、保護者も子どもの日頃を見て、楽しんでる様子と判断していると思われる。生徒と先生の仲は昨年度と同様の数値であり、安定した良好な人間関係が築けていると考える。来年度は、5月に新型コロナウイルスが5類に引き下げられるということもあり、さらに良好な関係が築けるような行事を企画していきたい。

④家庭への発信・連絡		A	B	A+B	C	D	C+D
教職員	7 保護者への連絡、または保護者からの相談について丁寧に対応している。	59%	34%	93%	5%	2%	7%
保護者	4 保護者からの質問や相談に適切に応じている。	44%	45%	89%	9%	2%	11%
	5 生徒の様子や状況について必要十分な連絡や報告がくる。	38%	43%	81%	16%	4%	19%

分析と措置と目標

遅刻・欠席等の出席状態についての連絡をはじめ、家庭への叢談また家庭からの相談についても、必要に応じて頻繁に状況の共有を図っている。教職員・保護者ともに高い割合が例年維持できているのは、出席・健康・進級・進路のどのカテゴリーであっても、家庭の理解と学校との方針の一致を確認しないといけないからである。家庭との信頼関係を損なわないよう、緊密に持続的な情報発信と保護者対応を心がけていきたい。

⑤学習状況・学力指導				
保護者	7	授業をとおして、さまざまな知識・技能が身についたと思える。	A+B	81%
生徒	5	先生の授業の内容・話し方は、わかりやすく聴き取りやすい。	A+B	72%
	6	授業を通して、さまざまな知識・技術が身についたと思える。	A+B	77%
分析と措置と目標 本項目においては、生徒の平素の感想が保護者の回答と大きく結びついていることが明瞭であり、授業内容に関する感想を家庭内でも共有していただいている、また、本校の「コース」「エリア」の取り組みに対して、一定の高い評価をいただいていることが窺える。しかし、ICT機器を駆使しながら「わかる授業」（視覚的アプローチ）や「積極参加できる授業」（アクティブラーニング）の展開が不十分な点もあることから、全ての生徒や保護者に満足いく授業展開がなされていないことも評価として頂戴している点は、一早く取り組みたいと考える。				

⑥不登校対応				
保護者	16	不登校の生徒についても進級・進路保障に関して細やかな配慮がなされている。	A+B	83%
生徒	16	辛くなったときに教室以外で学習できる居場所がある。	A+B	72%
分析と措置と目標 自分自身の中に抱える課題（人間関係構築及び体調面・心理面課題）と向き合いながら安心して登校を継続できる「過ごしやすい」カウンセリング室や保健室の環境がソフト面を中心に年々整備されており、各種の学校行事やコース行事に参加するカウンセリング室生の姿を頻繁に見かけるようになってきている。また、ほぼ全員が定期考査・進路決定等を経て卒業を無事に迎えている。このような結果を生み出しているのは、生徒本人、保護者、カウンセリング担当者、担任、学年との間で、適時対応する連携が長年の制度実施により構築されてきていることが裏付けとなっている。				

⑦進路保障・進路指導							A	B	A+B	C	D	C+D
教職員	12	学年・コースで進路指導について、しっかりした年間計画が立てられている。	25%	59%	84%	14%	2%	16%				
	13	生徒一人一人の希望・適性をすくい取るように、こまやかな進路調査をおこなっている。	25%	52%	77%	20%	2%	23%				
	14	生徒に対して、生き方や将来のビジョン・進路について考えるよう工夫している。	30%	59%	89%	9%	2%	11%				
保護者	9	自分の生き方や将来を考えるような進路指導がされている。	31%	49%	80%	16%	4%	20%				
	10	きめ細かい指導がされていて、説明会などの機会も適切に設定されている。	33%	48%	81%	16%	3%	19%				
生徒	8	進路について、一人一人に適した丁寧な指導がされている。	35%	44%	79%	18%	3%	21%				
	9	進路について、説明会や見学・研修がよく設定されている。	35%	46%	82%	16%	3%	18%				
分析と措置と目標 どの項目についても、おおむね前年度の調査結果と同じ数値となったが、教職員の調査については大きな変化がみられる。特に項目12については、A15%→25%：B79%→59%：C3%→14%と「やや当てはまる」と答えた教員が減り、「当てはまる」「あまり当てはまらない」という回答が増えた。学年間やコース間において、取り組みに差があることが原因と考えられる。学年単位の進路指導だけでなく、コースや個人に応じた進路指導を検討したい。いずれの項目に関してもD「当てはまらない」の回答を0%に出来るよう次年度は取り組みを強化していくことを目標とする。												

⑧生活指導							A	B	A+B	C	D	C+D
教職員	15	生徒指導において、家庭との連携・説明・認識の共有ができています。	48%	41%	89%	7%	5%	11%				
	16	問題事象に対して、学校全体で組織的な対応ができる体制がとれている。	32%	34%	66%	27%	7%	34%				
	17	いじめの早期発見について、生徒の変化や動向を特に意識している。	41%	45%	86%	9%	5%	14%				
保護者	11	学校の生徒指導（遅刻、服装、スマホなど）の方針に共感・納得できる。	36%	35%	72%	20%	8%	28%				
	12	学校は、いじめや問題行動に対して真剣に対応している。	28%	53%	81%	15%	4%	19%				
生徒	10	生活態度や学習態度などの基本的習慣の確立に力を入れている。	32%	46%	78%	18%	4%	22%				
	11	先生は、いじめなど困っていることについて真剣に対応してくれる。	34%	44%	78%	16%	6%	22%				
分析と措置と目標 学校に対する生活指導面での理解は得られていると感じられるが、2割の否定的回答がある以上、規範意識を高めるためのさまざま取り組みにおいて、日々の丁寧で分かりやすい声掛けをさらに心掛けたい。また、「いじめ」などの問題行動に対する教職員の意識の高さは感じられるが、学校全体で組織的な体制が取れていないという点に不安を抱いているのも事実である。来年度、いじめ問題にすぐさま対応できる組織的な体制の構築が急がれる。												

		⑨公共心・防犯・（防災）	A	B	A+B	C	D	C+D
教職員	18	すべての教育活動を通じて、社会規範や公共心・道徳心を大切にする意識が育まれている。	32%	57%	89%	7%	5%	11%
	19	情報モラル・薬物濫用、交通安全について人権や健康・安全の観点から強く指導している。	57%	41%	98%	0%	2%	2%
保護者	13	学校は、命を大切にしている心や、社会のルールを守る態度を育てようとしている。	37%	51%	88%	11%	2%	12%
生徒	12	命の大切さや社会のルール・防災についての意識を積極的に育てようとしている。	37%	46%	82%	15%	2%	18%
	13	地震や火災などが起こったときに、どう行動したらよいか、知らされている。	37%	41%	78%	18%	4%	22%

分析と措置と目標

年度初めに行う情報モラル講習や880万人訓練で行った防災訓練での映像学習、また、年間2回実施した自転車講習等の各種講習会実施によって、高い評価を得ていると推測する。このように、一年を通じて実施される各種講習会であったり、各クラスで行われている朝終礼での整然とした雰囲気づくりや姿勢の徹底などが、規範意識を高めることにも繋がり、保護者から非常に高い評価を得ることに影響したものと思われる。
社会で生きゆく上で必要な知識を身につけるため、これからも、分かりやすい各種講習をすすめていきたい。

		⑩心と人権	A	B	A+B	C	D	C+D
教職員	20	生徒一人一人に対して、公平に、人権を尊重した対応をしている。	45%	43%	89%	9%	2%	11%
保護者	14	学校には、心身の悩みについて相談しやすい先生がいるようである。	29%	46%	76%	19%	6%	24%
	15	生徒の人権・プライバシーがよく守られ、尊重されている。	36%	51%	87%	10%	3%	13%
生徒	14	悩みや相談に親身になって答えてくれ、気軽に相談することができる先生がいる。	30%	34%	64%	21%	14%	36%
	15	人権の大切さを学んだり、考えたりする機会がある。	34%	47%	81%	16%	3%	19%

分析と措置と目標

項目15では87、81%以上と高い評価を頂いているが、項目14では保護者76%、生徒64%とともに低い数値が見て取れる。コロナ禍もあり、生徒と教員の信頼関係を構築することができなかったことが背景にあると考えられる。積極的に生徒との時間を共有し相互理解を図り、さらに保護者との連携を密にする必要があると感じられる。またスクールカウンセラーに変わる、気軽に相談できる部署の構築が必要かもしれない。

		⑪学校設備	A	B	A+B	C	D	C+D
教職員	23	I C T機器・教材を活用した授業方法について、意欲的に研究・実践している。	25%	45%	70%	23%	7%	30%
	24	学校の施設・設備・備品など、快適な教育環境をととのえるよう努力されている。	30%	41%	70%	27%	2%	30%
保護者	17	学校の施設・設備は教育環境として適切に整っている。	56%	38%	94%	5%	2%	6%
生徒	17	I C T機器・教材をうまく活用した授業が行われている。	38%	43%	80%	15%	5%	20%

分析と措置と目標

生徒へのタブレットの導入初年度ということもあり、保護者・生徒ともに高い評価をいただいていることは非常にありがたい。教員においても、どうタブレットを使っていけばよいか模索しながら授業に取り入れていただいている。
より充実したものにできるよう、教員研修などを通して、教科間・学年間の情報交換を行っていきたく考えている。

		⑫特別活動	A	B	A+B	C	D	C+D
教職員	25	クラブ活動について生徒が生き生きと取り組めるよう指導している。	48%	39%	86%	11%	2%	14%
保護者	18	学校はクラブ活動や学級活動をはじめとする特別活動に力を入れている。	46%	45%	91%	7%	2%	9%
生徒	18	クラブ活動は活発で積極的に行われている。	51%	37%	88%	8%	4%	12%

分析と措置と目標

本年度のクラブ活動加入率は、運動部19.3%、文化部24.4%と全校生徒に対して43.7%である。特別活動でも、各学年や担任が生徒をどのように楽しませるかを考え企画しているので、どちらも高評価につながったと考えられる。
今後もクラブ紹介等、様々な場面でクラブ活動の活動状況を披露する場面を増やして、加入率が50%を超えるように取り組んでいきたい。